

令和4年度 城山西小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重」の教育を基礎とし、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で、思いやりのある豊かな心を持ち、確かな学力を身に付けた社会の一員としてたくましく生きる児童を育成する。

- 情操豊かで、思いやりのある子ども（やさしく）
- 自ら学び、よく考える子ども（かしこく）
- 健康で、やりぬく子ども（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

平成17年度より小規模特認校に指定され、特色ある教育活動を推進してきた結果、学校統廃合の危機を脱することができ、伝統ある学校として存続している。また、平成27年度の小規模特認校10周年を機に、「小規模特認校 第2ステージ ～新たな学校の創造～」の取り組みを展開している。

今後、本校がさらに発展していくためには、縦軸（人材育成と伝統の再構築）の視座に立った協働の展開と横軸（確かな教育活動と市内へのPR）の視座に立った教育活動の展開が不可欠となる。PDCAサイクルを活かしながら活動の展開と改善を重ね、立体的な発展を遂げていきたい。

前述を踏まえ、「小さな学校だからこそできること」をコンセプトとした本校の特色ある教育活動を推進し、今年度より、特に以下の二点に力点を置きながら、「魅力あふれる学校」を創り上げる。

- (1) 「未来を創る」をキーワードに、使命感と愛情をもった教職員の教育力の向上、縦割り班活動を核とした兄弟のような児童同士のつながりの強化、学校・保護者・地域の協働による信頼関係の構築に努める。（人材育成と伝統の再構築）
- (2) 「確かな力」をキーワードに、知・徳・体のバランスのとれた力を育む。また、活動の様子や成果を学校だよりやホームページ、ポスター等で市内に広く周知していく。（確かな教育活動・特色ある教育活動と市内へのPR）
そして、106人全員の笑顔輝く城山西小学校を目指すとともに、本校を希望して入学する児童数の維持・拡大に努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校・地域・行政が一体となった「新たな学校の創造」を推進するため、教職員の適材適所を図り、本校の実情に即した教育課程の編成と実践に努める。また、教育者としての使命感と愛情をもった教師力の向上に努めるとともに、業務の効率化を図り、労働時間の適正化に努める。（学校運営の適正化）
- (2) 児童一人一人のよさを認め励まし、自己肯定感を育み、居がいのある学校・学級づくりに努める。（学級経営の充実）
- (3) 道徳科の授業の充実に努めるとともに、地域のよさを生かした体験的な学習や読書指導、縦割り班（なかよしグループ）活動の活性化により、他人を思いやる心豊かでたくましい児童を育む。（豊かな心の育成）
- (4) 学力の基礎・基本の定着を図り、それらを活用する力を育成するとともに、体験的な学習や問題解決的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、自ら学び自ら考える力の育成に努める。（学習指導の充実）
- (5) 進んで運動に親しみ継続できるような手立てを工夫するとともに、保健・安全指導の充実に努める。（体力向上と保健安全教育の充実）
- (6) 学校・家庭・地域・行政と連携を密にしながら、小規模特認校として魅力ある開かれた学校づくりに努める。（魅力ある学校づくりの推進）

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

新学習指導要領が全面実施となった前年度の反省を踏まえ改善を図るとともに、新学習指導要領の留意点を十分に生かした教育課程の編成に努める。

また、地域とともにある学校づくりを推進するため、地域協議会の意見を踏まえながら教育課程を編成し、開かれた活動を推進していくとともに、家庭・地域・企業等と連携し、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の充実に努める。

(2) 留意点

・教科等横断的な視点で、各教科等の関連付けを図りながら教育課程を編成し、カリキュラムマネジメントの充実に努める。

- ・学校マネジメントシステムを有効活用し、地域協議会委員の意見を生かした教育課程の編成に努める。
- ・学校便りの地域への回覧や、ホームページの適宜更新をとおして、学校の教育活動に対する家庭・地域への積極的な情報提供を行う。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- ・ 全職員による指導体制を確立し、報告・連絡・相談の励行に努める。
- ・ 多様な専門スタッフとの連携によるチーム力の向上を図る。
- 小中一貫教育の検証・見直しを行い、義務教育9年間を見据えた教育活動に努める。
- 業務を効率化し、労働時間の適正化を図る。

(2) 学習指導

- 読む力、書く力、聞く力、話す力など、「学力の基礎基本」の確実な定着を図る。
- ・ 一人一台端末を活用した授業や家庭学習を積極的に取り入れ、学習内容の定着を図る。
- ・ 教材やICT等を効果的に活用しながら、「はっきり」「じっくり」「すっきり」を踏まえた授業展開を図る。
- ・ 児童の多様な考えを教師が適切にコーディネートしながら、探索的な学び合いの充実を図る。
- 教科等横断的な視点で教育課程を編成し、SDGs等の現代的な諸課題に対応できる力を育む。
- ・ 地域の人材が活躍できる場を積極的につくり、体験的な学習を意図的・計画的に位置づける。

(3) 児童生徒指導

- 日々、気持ちのよいあいさつが飛び交い、時と場に応じた言葉を交わし合う学校を目指す。
- ・ 「自分がされていやなことは、人にしない・言わない」態度を生活に根付かせる。
- ・ 道徳科の授業の充実に努め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。
- ・ 高学年が低学年の児童を兄弟姉妹のように面倒を見るという伝統を大切にしていく。
- 宇都宮学や地域の教育資源の活用積極的に取り組み、郷土を誇りに思う気持ちを育てる。
- ・ 「挑戦する」「がまんする」「あきらめない」活動を通して、児童に達成感や成就感を味わわせ、たくましさを滋養する。

(4) 健康（体力・保健・食・安全）

- 地域学校園内小学校で統一した各種検定カードや教科体育を通して、体力の向上と運動に親しもうとする態度や能力の育成に努める。
- ・ 新型コロナウイルス等の感染症予防について正しく理解し、適切な行動がとれる児童の育成に努める。
- ・ 食農体験を通じた食育の推進に努める。
- ・ 交通安全指導や避難訓練等を通して、児童の危険予測・危機回避能力の向上に努める。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業中に話をしっかり聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	① 「城西小よいこの一日学習編」をもとに、基本的な学習態度について共通理解を図りながら指導に当たる。 ② 児童の主体的な学びとなる授業展開を工夫する。 ③ 会話科の授業を充実させ、よく聴き分かりやすく発表する技能を高める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 92.7% 保護者の肯定的回答 87.5% 教職員の肯定的回答 100% ・本校の肯定的回答割合 85%を達成したが昨年度より5.8ポイント減少している。 【次年度の方針】 ・授業参観などで学校の様子を保護者に伝える機会を設けたり、学年だよりを通して学級の様子を伝える機会を増やしたりしていく。

<p>目 指 す 児 童</p>	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 道徳の時間の指導を要とし、各教科領域、特に児童指導との連携をとりながら、教職員が共通理解のもとに足並みをそろえて児童の規範意識を高めていく。 ② 学校ボランティアと関わる学習活動や縦割り班での活動、共遊の時間を大切に、児童同士あるいは児童と教師、保護者・地域の方々と豊かな心のふれあいができるようにする。 ③ 会話科等の学習を通して、コミュニケーション力を高め、互いの気持ちを伝えられるようにする。 ④ 盲学校との交流を継続し、心のふれあいを通して、障がいに対する理解が深められるようにする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 91.7% 保護者の肯定的回答 94.6% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・道徳の各学年の重点項目を意識しながら、計画的に授業を進めるとともに、学校教育全体で思いやりの心を育ていく。 ・コロナの感染状況を見ながら縦割り班活動や盲学校との交流活動、学習支援ボランティアと関わる学習活動を工夫して実施する。</p>
<p>の 姿</p>	<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「城西小よい子の一日」を見直し、教職員が足並みをそろえて、粘り強く児童を指導していく。 ② 児童が秩序ある安全な学校生活を送れるように、年間を通して学級の行動目標を決めて指導していく。 ③ 学級や全体集会等の場を活用して、児童のよさを学校全体でほめることで、きまりを守る大切さを理解させ、やる気を引き出していく。 ④ 道徳の時間の指導を要とし、各教科領域との連携を図りながら、きまりやマナーの大切さについて指導を徹底することで、児童の規範意識を高めていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 88.5% 保護者の肯定的回答 94.7% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も「城西小よい子の一日」について周知徹底していくとともに、細かいルールについては、その都度教職員で共通理解を図り一貫性のある指導ができるようにする。 ・全体の場では良い点を褒めることに重点を置きながら、指導の徹底を図る。 ・道徳の各学年の重点項目を意識しながら、計画的に授業をすするとともに、学校教育全体で児童の規範意識を高める。</p>
	<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「いつでも・どこでも・だれにでもさわやかあいさつ」の合言葉のもと、児童会を中心に城山地域学校園で連携したあいさつ運動や「あいさつ広げ隊」の活動を継続する。 ② 登校指導の場では学校・地域・保護者で連携を図り、子供たちが気持ちよくあいさつができる環境を整え、同時に、あいさつの大切さを伝え、広げていく。 ③ 学級懇談会や個人懇談などで家庭内でのあいさつの様子について話題にするなど定期的に家庭でのあいさつ状況を振り返らせ、学校と家庭で足並みをそろえたあいさつの指導をしていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 97.9% 保護者の肯定的回答 79.7% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・「あいさつ広げ隊」の活動などを家庭へ周知し、家庭内でのあいさつを充実させていく。 ・学級懇談会や個人懇談では、児童の家庭内でのあいさつの実態について話題にしながら家庭内でのあいさつ指導の協力を仰ぐ。</p>

<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 漢字や計算、運動の検定や各大会などの教育活動を設定することで、児童が自ら目標を持って、進んで活動できるようにする。</p> <p>② 学期ごとに、学習と生活のめあてを立てて、その達成状況を学期末に振り返る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 87.5% 保護者の肯定的回答 76.4% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・漢字や計算について到達目標を保護者に示し、漢字テストや計算テストを定期的実施していく。到達目標に達していない児童には、家庭の協力を仰ぐとともに、個別に支援する機会を設けていく。 ・各種便りや連絡帳などで、学習や生活の状況をこまめに周知し、学校での取組を保護者に周知していく。</p>
<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 感染症予防を意識した新しい生活様式における基本的な生活習慣の定着を図る。</p> <p>② 健康の保持増進を意識した生活を送ることができるよう、定期健康診断の結果を生かした指導や、バランスのとれた食事についてなど具体的な指導に努める。</p> <p>③ 避難訓練や交通安全教室などを計画的に実施し、安全を意識した生活ができるようにしていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 91.7% 保護者の肯定的回答 89.8% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 93.8%</p> <p>【次年度の方針】 ・感染症の状況に合わせて、場面ごとに適切な対応を検討するとともに、規則正しい生活習慣による健康づくりを基盤とした感染症予防策について、家庭と連携しながら取り組んでいく。 ・栄養バランスについて、授業や給食での学校栄養士による専門的な指導を継続する。</p>
<p>A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるように努力している。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① キャリア教育を中心に、学校の教育活動全体で、自分の夢や目標をもちそれに向かって努力する大切さや喜びを実感できるようにする。</p> <p>② 文化人の先生や地域の方、保護者との多様なかかわりを通して、他者と協力・協働していくことのよさに気付かせ、社会に参画していこうとする心を育てる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 87.5% 保護者の肯定的回答 76.4% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・キャリアパスポートの活用により、自分の夢や目標を学年に応じてとらえられるよう指導する。 ・キャリアパスポートの内容を検討し、将来のためにできることを具体的に考えられるようにしていく。</p>
<p>A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 授業を中心に、英語を使ってコミュニケーションを図ることの楽しさを味わえるよう、指導を充実させる。</p> <p>② 英会話タイムの充実を目指し、年に数回校内研修を行い、教職員の指導力の向上に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 90.6% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・高学年の教科書の内容も加味しながら、本校ならではの英語に特化した年間指導計画に沿って指導していく。 ・英会話タイム・授業の充実を目指し、来年度も定期的に校内研修を実施する。 ・生活の場で英語に触れられる機会を増やすため、高学年児童による校内放送の充実を図る。</p>
<p>A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「私は、宇都</p>	<p>① 社会科を中心に生活科や総合的な学習の時間に、宇都宮市や城山地域の、地理や産業・文化財などについて学ぶ機会を充実させる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 82.3% 保護者の肯定的回答 75.5% 教職員の肯定的回答 93.8%</p>

<p>宮の良さを知っている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>② 宇都宮学の副読本を活用して家庭とも連携しながら、自分たちの住んでいる地域や、宇都宮のよさを実感できるよう指導していく。</p>	<p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「宇都宮学」を中心に、家庭と連携しながら宇都宮のよさを実感できるように指導する。 ・特に低学年においては、宮っ子ランチなどの機会を活用して宇都宮について知る機会を設けていく。
<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 調べ学習や発展的な内容の学習の時間において、ICT機器や図書資料を有効に活用した活動ができるよう、指導を充実させる。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答 85.4% 保護者の肯定的回答 89.5% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人用パソコンを活用した学習活動は十分されるようになったと考えられる。今後は図書資料を活用した調べ学習を意図的に取り入れていく。
<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 年間を通して、地域の「古ざくら会」との農園活動・昔遊び・地域合同行事等を通して高齢者との交流を深める。 ② 各活動の後の振り返りを大切にし、協力してくださった方のことを想起させ感謝の気持ちや、いたわりの気持ちを育むようにする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答 91.7% 保護者の肯定的回答 94.6% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き感染症の状況を鑑みながら、桜祭り、運動会等の行事や「古ざくら会」との農園活動、昔遊び、ふれあい給食などの交流活動を充実させていく。
<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 日々自分たちが行っている、ごみの分別・リサイクル・節電・節水や、PTA資源回収などの活動が、身の回りだけでなく地球環境の維持につながっていることを意識させる。 ② 古賀志山清掃登山や裏山探検などを理科や社会、総合の授業と、関連させて、身近な自然を実感させ、自然の大切さを意識できるような教育活動を展開していく。 ③ 本校は土砂災害警戒区域内にあることを意識させ避難訓練などで指導を継続していく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答 84.4% 教職員の肯定的回答 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き5年生で生ごみから土・野菜作りを行ったり、裏山の土中の微生物を観察したりすることを通して自然を尊ぶ心情を育成した。清掃登山前には自分たちの活動が地域の自然環境保全につながっていることをSDGsの言葉を使って指導した。全校児童・全職員での落ち葉拾いなど他にも様々な活動を行ってきた。児童も一人一人一生懸命活動することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然に親しむ生活科・理科の学習やSDGsに関する学習は総合的な学習や社会科の時間を中心に進んでいるが、それが持続可能な社会につながっていることをより意識させるように指導していく。
<p>B1 体力の向上を目指し、進んで活動している。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は児童が水泳検定や縄跳び検定等の体力づくりに向けて努力するよう指導</p>	<p>① 水泳検定、縄跳び検定および、縄跳び大会を実施することで、児童が自らの体力向上を目指し、目標を持って、進んで活動できるようにする。 ② うつのみや元気っ子プロジェクトミニマム達成に向けて運動プログラム集を活用する。 ③ 本校の課題である「投力」を向上できる</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答 82.3% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種検定への取り組みや縄跳び大会等を実施することで、体力の向上を図るとともに、目標に向かって努力する大切さを指導していく。 ・宇都宮市が課題としている「投力」や

	を工夫している」 ⇒児童・教職員の 肯定的回答 85%以上	よう、サーキットトレーニング等を通 して投力、さらには体力の向上を図る。	本校の課題である「持久力」を向上させる ために、児童が意欲的に取り組んでい けるような企画を計画・運営していく。
目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支 援を必要とする児童 の実態に応じて、適切 な支援をしている。 【数値指標】 アンケートの「教職員は、 特別な支援を必要とする児 童や外国人児童等の実態に 応じて、適切な支援をして いる。」 ⇒教職員の 肯定的回答 90%以上	① 特別な支援が必要な児童の実態把握 と、校内支援委員会やケース会議、情報 交換会などを通じた情報の共有に努 め、職員間で連携を図って適切な支援 を行う。 ② 必要に応じて、SC や SSC, 教育センタ ー、病院、市役所等、各関係機関と連携 し、適切な支援を行う。 ③ 家庭と密にコミュニケーションを図る ことで信頼関係を築き、協力して支援・ 指導を行っていく。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% ・年間3回の校内教育支援委員会や職員 会議後の児童指導連絡会において特別 な支援を必要とする児童についての共 通理解を図るとともに、日常的に職員間 で連携を図り適切な支援を行うことが できた。 ・個人懇談の他にも送迎時等、保護者と 連絡を密にとり、保護者と同一方向で支 援・指導を行うことができた。 【次年度の方針】 ・次年度も全職員で児童の実態把握と共 通理解に努めながら、特別な支援が必要 な児童が安心して学校生活を送れるよ うに努める。
	A14 教職員は、いじめが 許されない行為であ ることを指導してい る。 【数値指標】 全体アンケートの「学校 は、いじめ対策に熱心 に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・地域の肯 定的回答 85%以上	① 児童集会等でいじめは絶対許されな いことであるという指導を行う。 ② 教育相談やアンケートを実施し、いじ めの起こらない環境づくりを推進す る。 ③ 児童の些細な変化を見逃さないように 教職員間で情報を共有し指導にあたる ようにする。 ④ 学校日より等各種たより及び学級懇談 会等を活用し、いじめアンケートの結 果など、本校のいじめ防止の取組につ いて情報を発信するとともに、各家庭 と積極的に児童の様子などを情報交換 する。 ⑤ 生活目標や学校のきまり、いじめ防止 を強調した合言葉「自分がされていや なことは、人にしない・言わない」な どを児童へ周知徹底する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 93.8% 保護者の肯定的回答 80.0% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・いじめ根絶集会では、児童に紹介する 本を司書教諭と協力しながら、より児童 の実態に合ったものを選ぶ。いじめゼロ スローガンは児童中心に考えさせ決定 する。 ・児童の学校での様子、些細な行動の変 化、気になる表情など、教職員間だけ でなく家庭とも連絡を密に取りながら情 報を共有することで、いじめの防止、早 期発見につなげていく。 ・教職員の共通理解のもと、「自分がされ ていやなことは、人にしない・言わな い」を児童に浸透させていく。
	A15 教職員は、不登校を 生まない学級経営を 行っている。 【数値指標】 アンケートの「先生方は、 一人一人を大切に、児童 がともに認め励まし合う クラスをつくってくれて いる。」 ⇒児童・保護者・教職員の 肯定的回答 90%以上	① 学級・児童に関する情報交換会を職員 会議後に開き、全教職員で情報を共有 し、対応について共通理解を図る。 ② 児童が活躍できる場の設定や、努力や よさを認め励ます教育を推進する。 ③ 欠席児童に対する、電話連絡や家庭訪 問など欠席が長期化しないように、初 期対応を徹底する。 ④ 教育相談や個人懇談で得た情報は詳し く記録に残し、児童理解のために有効 に活用していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 86.5% 保護者の肯定的回答 81.5% 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・①～④の取組を継続して確実に実施 し、学級経営に生かしていく。

<p>A16 教職員は、外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 定期的に指導連絡会や校内支援委員会を開催し、全職員が特別な支援を必要とする児童に対する共通認識をもち、同じ方向性で指導・支援を行う。</p> <p>② 必要に応じて、日本語指導を行い、学校生活への適応を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% ・各関係機関と連携し、臨時のケース会議や個人懇談を実施することで児童や保護者の実態を把握し、特別な支援を必要とする児童等に適切な支援をすることができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・本年度に引き続き、各関係機関と連携し、児童や保護者の実態を把握するようにはしていき、児童の実態に応じた適切な支援に努める。</p>
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学校生活において、一人一人が生き生きと達成感を実感できるような活動の場を意図的に設け、自己肯定感の向上を図る。</p> <p>② 学校生活の様々な場面で縦割りによる交流活動の時間を工夫し、活動のめあてにあった支援を加えながら異学年でのふれあいの充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 90.6% 保護者の肯定的回答 84.5% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も、異学年でのふれあい活動や、達成感を実感できるような活動の場を設け、自己肯定感の向上に努める。</p>
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなどきめ細かな指導をしている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学習のめあてや振り返りを大切に扱い、一人一人が分かる授業を実現する。</p> <p>② 少人数のよさを生かし、一人一人のつまずきに応じた個別指導を行うとともに、習熟度別学習、TT、かがやきルームの活用など学習形態を工夫し、一人一人を大切にされた指導に努める。</p> <p>③ 学期ごとにまとめの月間を設定し、家庭にも周知を図って、一人一人の習熟に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 91.7% 保護者の肯定的回答 84.0% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も児童理解を図りながら適切な指導及び支援が行えるよう、教職員間で連携を図っていく。 ・学校での取組を、ホームページや学年だより、授業参観等で保護者にも積極的に発信していく。</p>
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 専門的な業務において、学校図書館司書、AET、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーと連携・協働しながら業務を進めるように努める。</p> <p>② 教職員が教育活動において役割分担などを見直し、同僚性を発揮しながら取り組めるようにする。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き学校に関わる職員全員がチームとなり、より充実した教育活動を行えるように協力して業務に取り組んでいく。</p>
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p>	<p>① 出退勤の記録を付けることで勤務時間について意識する。</p> <p>② P D C A サイクルによる教育課程の振り返りや、学校行事の精選、反省に基づくスリム化・効率化につながる改善を</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 81.3%</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き教職員が勤務時間を意識して業務に取り組んだり、積極的に効率化を</p>

<p>アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>図る。</p>	<p>図ったりできるよう取り組んでいく。</p>
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が連携した取組を主体的に行っている。」 ⇒児童(5・6年)・保護者・地域・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 小中合同あいさつ運動、小中乗り入れ授業、6年生の中学校訪問など小中合同で行う取組を確実に実施し、活動の様子を各種便りやホームページで公開するよう努める。 ② 地域学校園内での各校の学校課題等の研修に積極的に参加し、協力して研修を進めていく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答 75.0% 保護者の肯定的回答 86.0% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・小中合同あいさつ運動やお弁当の日、宮っ子チャレンジウィークなど、限られた機会に有効な活動が行えるように、内容の検討やその他の連絡調整を行っていく。</p>
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学校支援ボランティアの組織を充実させ、地域協議会の地域学校協働活動推進員を中心に、更に地域や保護者と連携させながら活動を展開していく。 ② 地域の自然を生かした教材のカリキュラム化を図る。地域の教育資源を活用した教育活動を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答 92.7% 保護者の肯定的回答 91.2% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き地域学校協働活動推進員を中心に学校支援ボランティアの充実と計画的な実践を行っていく。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 孝子桜まつり・古賀志山清掃登山・地域合同運動会などの行事を、学校・保護者・地域が連携して実施する。 ② 地域学校協働活動推進員を中心に学校を支援するボランティアを募り、学校・家庭・地域との連携、協力を深め、開かれた学校づくりに努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答 92.7% 保護者の肯定的回答 91.2% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・孝子桜まつり・古賀志山清掃登山・地域合同運動会など地域と連携して実施する。 ・地域学校協働活動推進員と協力・連携し、開かれた学校づくりを推進していく。</p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」</p>	<p>① 児童や利用者が安全に利用できるよう、毎月の安全点検を確実に実施し対応が必要なところは、迅速に処理する。 ② 学校施設利用者や保護者へ、来校時の安全面での注意点やAEDの設置場所の周知、災害時の避難など危機に対応できるよう情報を提供する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 保護者の肯定的回答 91.4% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・安全点検を実施し、不具合のある場合には迅速に対応する。 ・ホームページや各種お便り、学級懇談会等の機会を通して、家庭や地域へ、校</p>

	⇒保護者・地域・教職員の肯定的回答 90%以上		内の安全対策への取組の様子を情報発信する。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 実物投影機・個人用パソコンなどのICT機器や、児童が活動で使う図書資料等を準備する。 ② ICT機器や図書資料を、授業等で児童が使用しやすくし、十分に活用できるように、情報を提供したり、校内研修を行ったりする。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 85.4% 保護者の肯定的回答 89.5% 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・ICT機器や図書資料等を適切に管理するとともに、児童の情報モラル教育の更なる充実を図っていく。
	B2 学校は、読書活動を積極的に推進している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校の読書は充実し、教職員は子供たちが読書に興味をもつように指導を工夫している」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上	① 読書活動の充実を図るために、朝の読書タイムを充実させ、読み聞かせボランティア等による読み聞かせなどを行う。 ② 教科や総合的な学習等、学習と関連のある図書を意識的に紹介し、様々なジャンルの本への興味づけを行う。 ③ 図書館便りを更に充実させ、読み聞かせの様子や読書活動の重要性を保護者へも知らせる。 ④ 校内の希望する児童を対象に、ビブリオバトルやアニメーションを実施し、本に親しむ機会を作る。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答 85.4% 保護者の肯定的回答 96.2% 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・引き続き様々な読書活動を展開し、児童は本に親しむ習慣を付けるよう働きかける。 ・児童による読み聞かせ活動を取り入れ、より読書活動が身近なものになるようにしていく。
本校の特色・課題等	B3 日本語や英語を使ったコミュニケーション能力を高めるための指導を推進している。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は児童が日本語や英語を使って進んで表現したりコミュニケーションしたりできるよう指導を工夫している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 英語や日本語によるコミュニケーション能力を伸ばすために独自の会話科・外国語活動の年間指導計画に基づき、計画的、系統的に指導を行っていく。 ② 英会話タイムをTT体制で内容を充実させながら継続していくとともに、外国語の授業では、やり取りを重視した、楽しい授業作りを行う。 ③ 外国語活動や外国語については、中学校へのつながりを意識した研究を進めていく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 85.4% 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・会話科、外国語活動、外国語科の年間指導計画を再検討していく。 ・今後もAETやTT体制を活用しながら英会話タイムの充実を図っていく。
	B4 学校と地域・文化人と連携した学校教育活動を推進している。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、保護者や地域住民・文化人と連携、協力した教育活動に積極的である」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上	① 学校支援ボランティアの組織を充実させ、地域協議会の地域学校協働活動推進員を中心に、更に地域や保護者と連携させながら活動を展開していく。 ② 地域の自然を生かした教材のカリキュラム化を図る。地域の人々を積極的に講師として迎え入れた活動を行う。 ③ 豊かな感性を育てるため、芸術・文化の分野で活躍されている文化人の先生方による授業を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 90.6% 保護者の肯定的回答 98.4% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・学校支援ボランティアの活動の充実を図り、引き続き地域・文化人と連携した学校教育活動を推進していく。
	B5 給食農園へのかかわりや農業体験学習を行い、食育指導との連携を	① 給食農園で地域の方との連携を深めたり、種まきから収穫まで児童が栽培に関われるように活動を充実させたりす	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 96.9% 保護者の肯定的回答 100% 地域の肯定的回答 100%

<p>図っている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケートの「農業体験活動を通して、大地の恵みに感謝する心を育てると共に食育の充実を図っている。」</p> <p>⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>ることで、食に対する関心を高めたり、感謝の心を育成したりすることを目指す。</p> <p>② 地域の食材を積極的に利用し、安全でおいしい給食や特色ある給食を実施する。</p> <p>③ 給食の時間に、給食農園で取れた野菜や米、地域の食材を紹介することで、感謝の気持ちを育て、食農教育の充実を図る。</p> <p>④ 食育だより・給食だより・保健だよりを充実させ、保護者へも啓発していく。</p>	<p>教職員の肯定的回答 100%</p> <p>・今年度も、交流給食や親子給食、ランチルームでの全児童・全職員での給食を実施することができなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・次年度の交流給食やランチルームでの給食の実施について国や市の意向を踏まえて慎重に決定する必要がある。</p> <p>・作ってくれる人や大地の恵みへの感謝の気持ちをもつよう働きかけると共に、残食に対する意識付けも更に行っていく。</p> <p>・交流給食や親子給食を工夫して実施することで、本校ならではの給食のよさを伝えていく。</p>
---	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所以下線を付ける。

総合的にみると、30項目うち19項目で本校設定の児童・保護者・地域・教職員の数値指標を達成することができた。地域・教職員の数値目標に関しては、ほぼ達成できたといえる。一方、保護者の評価では、肯定的割合の達成度に足りない点が見られた。

宇都宮市の平均値と比べてみると、教職員では、20項目中18項目、地域では、9項目すべてにおいて市の平均を上回っている、保護者の評価では15項目中7項目、児童の評価では16項目中3項目と市の平均を達成している項目が少なくなっている。

保護者の評価の詳細を見てみると、「時と場に応じたあいさつをすること」「夢や目標に向かって粘り強く取り組むこと」などが、70%台と低い肯定的割合となっている。あいさつについては、児童の肯定的割合が97.9%であるので、家庭でのあいさつの習慣をさらに身に付けられるよう「いつでもどこでもだれとでも」あいさつができる環境づくりを進めていきたい。また、「うつのみやのよさ」の項目については、昨年度と同様に低い肯定的割合となっているので、指導を継続していく。

それ以外では、昨年度の保護者の肯定的割合が低いものに「いじめ対策」が挙げられていたが、今年度、学校全体で重点的な指導を行ってきたため、保護者の肯定的割合が高くなり、80%台に達した。共通理解のもと、全教職員が関わったことが、保護者の理解を得られたと言えるだろう。

さらに、小中一貫の取組や家庭・地域・企業と連携した教育活動への肯定感が高く、保護者の理解を得られている項目である。

今回、保護者からいただいた意見を今後の学校運営に生かしていけるよう職員間で共通理解を行い、次年度へ向けた取組を考えていきたい。

次に児童の評価に目を向けると、「不登校への取組」が低くなっていることが挙げられる。市平均と比べ9.9ポイント低く、昨年度と比べても8.2ポイント下がっている。不登校への取組は、学校全体として行っているが、取組の改善を図っていきたい。児童も城西山西小の全員が登校できることを望んでいるので、不登校児童へ寄り添ったきめ細かい指導とそれ以外の児童への学級経営を次年度しっかりと進めていきたい。そういった一つ一つの取組が、児童の各項目に対する肯定感を高めていくものと考ええる。16項目中、市の平均を超えたものが3項目という現実にはしっかりと向き合い、一人一人の児童へ寄り添った支援を行っていこうと考える。

また、本校独自の項目である「食育の充実」については、小規模特認校としての特色ある教育への取組を評価していただいている。しかし、本校独自の「文化人の先生方による教育活動の実践」については、児童・保護者共に昨年度よりも肯定的割合の数値が下がっており、文化人の先生方の授業の意義や読書活動への関わりなど活動を振り返り、児童に十分な理解をさせた上で進めていけるとさらに充実した活動になっていくものと思われる。

【次年度へ向けての取組】

今年度、肯定的回答割合が設定した数値指標に満たなかった項目、また次年度改善や充実をさせたい項目は、以下のとおりである

◇ 肯定的回答率の低かった質問項目

1 「児童生徒は宇都宮のよさを知っている。」（【保護者】数値目標 80% 肯定的回答率 75.5%）

〈改善に向けた基本方針〉

保護者の回答率は、数値目標の80%に届かなかった。児童の肯定的回答率は、82.3%と他の項目と比べるとやや低いといえる。宇都宮学の学習を、社会科を中心に総合的な学習の時間や生活科などで、発達段階に応じて触れたり、学んだりする機会を充実させていく。また、それを校内に掲示したり学年日より等で保護者に知らせたりし、啓発を図っていく。

◇ 昨年度に比べて肯定的回答率が下がった質問項目

1 「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」(【保護者】数値目標80% 肯定的回答率76.4%)

〈改善に向けた基本方針〉

保護者の肯定的回答率は、昨年度より10ポイント下がっていた。大きく下がったことにより数値目標の80%に届かなかった。児童の肯定的回答率は、87.5%と他の項目と同じくらいであることから、学校でのキャリア教育を保護者に理解してもらえるよう啓発していきたい。そのためには、学校からの情報発信と目標を明確にした教育活動をあらゆる場面で取り入れていくことが必要になってくる。

総合的にみると、概ね数値目標を達成している。特に教職員の肯定的回答割合が高く、コロナ禍にあっても共働しながら精一杯教育活動を行っていたことがうかがえる。一方で、今年度は保護者と児童の評価項目で昨年度よりも肯定的回答割合が下がっている項目が多くみられた。主に学校の教育活動や教職員の支援に対する項目であるので、これらの意見を真摯に受け止め改善を図っていく必要がある。学校から保護者へのきめ細かい連絡と一人一人の児童への言葉かけなどをさらに充実させ、保護者の理解を得られるよう努力していくことが必要である。

7 学校関係者評価

地域協議会と学校に関すること

- ・ 今後、今まで中止や縮小されてきたさまざまな行事が通常通りの実施になっていく。現在、行事が縮小されている中で、今後どのように地域と関わりながら進めていくかが課題である。地域と学校との協力体制のもと、今後の教育活動について意見を交換していく必要性を感じている。地域との信頼関係をさらに高め、よりよい連携を目指して進めていきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※ 「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

次年度へ向けて次のような方策を立てて教育活動を進めていきたい。

- 1 「確かな学力」を育む教育の推進
 - ・ 基礎・基本の確立と定着
 - ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の構築
 - ・ 外国語科・外国語活動における「新・カリキュラム」の実践と改善
 - 2 「道徳科の授業」を柱とした豊かな心を育む教育の推進
 - ・ 道徳科の授業の充実と研修体制の確立
 - ・ 認め励ます教育や、縦割り活動、体験的な学習の推進
 - ・ 「挑戦する」「がまんする」「あきらめない」活動を通じた、たくましさの滋養
 - ・ 「いじめゼロ」の実現（教職員の共通理解のもと「自分がされていやなことは人にしない・言わない」の継続指導）
 - 3 「運動の日常化」と「体幹を鍛える運動の定着」による体力向上の推進
 - ・ 各種検定カードの活用や教科体育時におけるサーキットトレーニングの時間の設定、休み時間の運動の推奨
 - ・ 妻木律子先生による「体幹を鍛える運動」の指導と定着
 - 4 「地域とともにある学校」づくりの推進
 - ・ 地域協議会との連携の充実
 - ・ 持続可能で発展的な行事内容の検討と実践
- ※ 創立150周年を視野に入れた取組を実施していく。